

花と緑の銀行だより

184号 2012.7



青野自然公園パークゴルフ場花壇／入善町

目次

- ・花と緑の提言（入善支店）…………… 2
- ・活動事例〈花と緑の溢れる地区をめざして（南砺支店）〉…………… 3
- ・技術講座〈種まきから始めよう2〉…………… 4
- ・技術講座〈富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン〉…………… 5
- ・緑づくりコーナー〈庭木に適したアメリカザイフリボク〉…………… 6
- ・この人あり〈グリーンキーパーの仲間と地域活動（魚津支店）〉…………… 7
- ・お知らせ…………… 7



緑あふれる公園都市「入善町」の 実現を目指して

花と緑の銀行

入善支店長(入善町長) 米澤政明

富山県東部に位置する入善町は、北アルプスから流れ出る急流、黒部川によって形成された、黒部川扇状地の中心に位置する、人口約27,000人の町です。

黒部川は、かつて黒部四十八ヶ瀬と云われた暴れ川で、たびたび氾濫を繰り返し、人々を苦しめた反面、この水を利用した流水客土と、圃場整備の実施により、現在では、県内有数の穀倉地帯となっております。また、全国名水百選に指定された黒部川湧水群を有しており、量も豊富で清らかな水が、町のいたるところで取水される、名水の町であります。

このような環境の特性を有している入善町は、緑のあふれる地域となっており、永年にわたり水田裏作として栽培され全国的な生産量を誇っている【チューリップ】を町花とし、また、かつて、黒部川扇状地に広く分布し、現在も下山河岸段丘に群生している【こぶし】を町木に指定しております。



扇状地に広がる【入善町】

さて、緑あふれる公園都市を目指す入善町は、昭和47年9月に議会の承認を得て、「きれいで、ゆたかで、生きがいのある町」を目指して公園都市宣言をしており、長い間、公園都市の実現に向けて取り組んできたところであります。平成22年度末の統計では、町民一人あたりの公園面積は、22平方メートル弱となっており、県平均の14.6平方メートルを超えて、県内では3位と、上位に位置しております。公園都市を目指す姿勢は、都市宣言を行った昭和47年から引き継がれ、県内でも有数の公園都市となったものと考えております。

近年における公園事業としまして、平成22年度には、中心市街地の緑のうおい空間として花月公園を再整備しました。花月公園には、もともと植栽されていたコブシ、モクレン、ソメイヨシノ等に加え、ヤマザクラ、イロハモミジ、ヤマボウシが植栽され、また、新たに整備された花壇には、サルビア、ペゴニア、日々草がグリーンキーパーを始め、地域住民の手により色鮮やかに植栽されました。

また、平成23年度には、旧フラワーセンターの跡地を利用し、芝生や樹木により緑があふれる「ゆうかり公園」を整備しております。この公園は、小学校と保育所が隣接し、地域の子育て拠点施設と位置づけております。公園の名称は公募により決定しましたが、ユーカリの木については、成長が早く生命力が強いことから、応募者の意見においても、「子どもたちがユーカリの木のように成長してほしい」という願いがこめられているようです。



まちなか潤い空間【花月公園】



地域の緑の広場【ゆうかり公園】

本年度には、昨年から着工している青野自然公園パークゴルフ場の拡張整備工事が完了し、県内でもめずらしい河川敷にある無料パークゴルフ場として、いっそうの利便性が図られることが期待されます。

今後においては、「入善南公園」や「下上野公園」といった、今まで未整備であった都市計画公園の整備を控えており、公園都市「入善町」の充実が図られることが期待されます。

花と緑の溢れる地区を目指して

南砺市池田老人クラブ

会長 吉田 徳久

池田地区のある南砺市井口地域は、背後には1,000m級の山々が連なる山沿いに位置し、平成16年旧井口村から南砺市に合併した緑豊かな田園地帯です。昔から家々の屋敷にヤブツバキが植えられ、山々にはユキバツバキが群生しており、この地域は、このツバキを核とした豊かな自然環境を全国に発信しようと、【日本一の椿の村づくり】を合言葉に主要な施策として取り組みを始めました。その後、椿公園【椿の園】や中核となる【いのくち椿館】の施設をはじめ、住民への苗木の配布、一人一鉢運動の展開、椿の育成講習会を開催するなど、椿の普及推進に努め、毎年開催される【南砺いのくち椿まつり】も井口地域の一大イベントとして大勢の人出で賑わいをみせています。こうして花を愛し育てる村の機運が各地区に波及し、花壇づくりが盛んに行われるようになってきました。池田地区は戸数37戸の集落ですが、当時の老人クラブの方々が空き地を利用した花壇を造成し、草花の栽培を始められ、その後次第に路肩の花街道へと規模が拡大し、道行く人の目を楽しませるとともに、住民の心に潤いと安らぎを提供してきました。



会員55人で構成している老人クラブでは事業の中に愛花会活動部門を設け、地区の環境美化活動を担当し、平成19年度より新たに池田地区環境保全会の景観形成活動の一環として、支援を受けながら活動を展開しております。メインの花壇の面積は約185㎡あり、世界の平和を願って【平和花壇】と命名し、毎年約7品種2,000株を栽培しています。その他に公民館前の広場に約30㎡の小規模な花壇と市道沿線の路肩約250mにサルビアの赤い花を基調としたフラワーロードを造り、明るく活力ある地域づくりに努めています。その成果が認められて富山県花のまちづくりコンクールにおいて平成12年度に花の道の部で最優秀賞、平成22年度に花壇の部で奨励賞を受賞しました。また、南砺支店花壇コンクールでは一般花壇の部で平成21年度から3年連続で入賞し、活動の大きな励みとなっています。

花の栽培管理については老人クラブ役員を中心

に出役のバランスに配慮してできるだけ多くの会員に協力していただけるようにしています。花壇や花街道への定植作業やこまめな除草作業、整備



作業は全員を対象とし、夏季の散水作業は長期間に及ぶので毎日2人組のローテーション制を採用しています。以前は種蒔きから始めていた花苗の育成ですが、発芽や種苗育成に難しい面があり、現在では殆どプラグ苗を仕入れ、営農組合から譲り受けたビニールハウス内で花苗を育苗するようになっています。いずれにしても約5,000株にも及ぶ花苗の育成には、毎日の灌水は勿論のこと病害虫の予防など継続的で適正な管理と労力を必要とします。しかし、花の栽培管理作業の中で会員間の会話が弾み、仲間意識を図るよい機会にもなっており、近年は子供たちへも草花の植栽に協力してもらおう場を設けたり、残った花苗を地区住民や福祉施設に提供したりして自然環境美化の啓発と普及の輪が広がりを見せていることが何よりも大きな支えとなっており、今後更に花に満ちた地区づくりに努めるとともに、花への親しみの涵養を図る活動を続けてまいりたいと思っております。



上手な播種および育苗方法

農学博士 松本美枝子

選んだ品目の（購入）種子を、均一に発芽させるには、水分や温度、光などの条件を整える必要があります。

水分：発芽を規制する最も重要な要因です。種子は、最初急激に水を吸って膨潤し、その後緩やかに吸水します。水分を吸収することで発芽に向けた動きを始めます。実際場面では、播種前後に十分な灌水を行います。

温度：多くの品種は発芽適温が、25～30℃ ですので、異なる温度条件に置かれると発芽が悪くなったり遅くなったりします。温度条件を考えると、加温の必要がなくなる4月中旬以降が適当と思われます。逆に、7月、8月の高温時は涼しい日陰や遮光処理など、高温対策が必要です。

光：発芽に光が必要なものは好光性種子、光によって発芽率が低下するものは嫌光性種子といます（市販種子袋に記載）。好光性種子の場合は播種後覆土を行わないか、種子が表面に露出しない程度の覆土にとどめます。また、嫌光性種子の場合は、光が種子に届かないよう通常（種の大きさの3倍）の倍の覆土を行います。

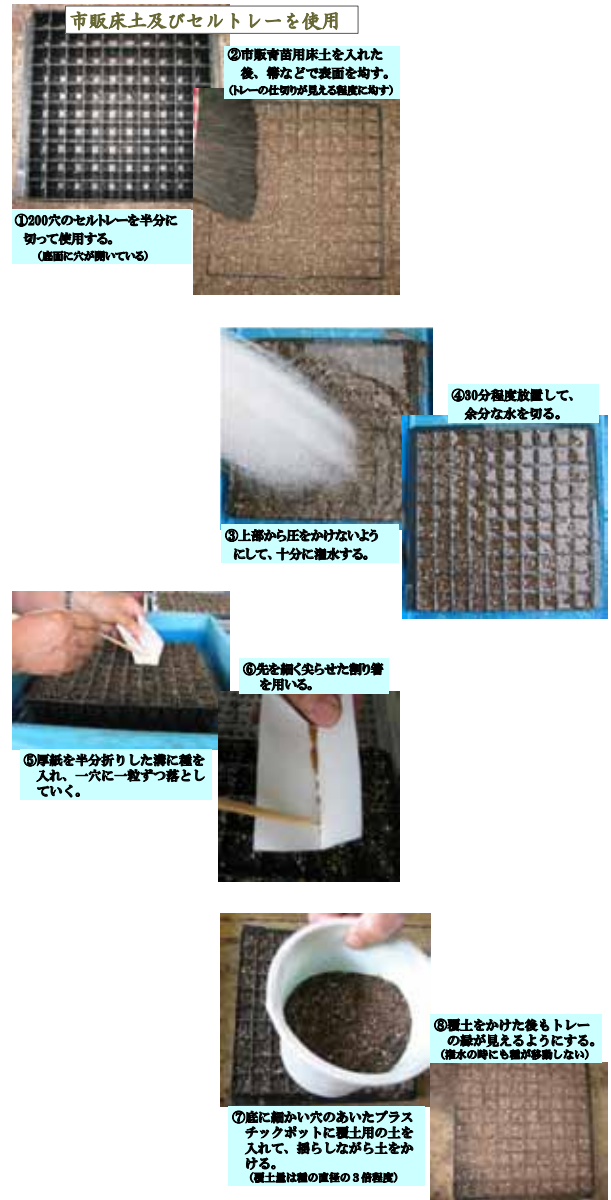
酸素：種子は呼吸によって発芽に必要なエネルギーを賄います。酸素吸収が大きいほど発芽の進行が早まります。そのためには土の中に一定量の空気を確保する必要があります。

◎具体的播種方法

播種用の土は、粒が細かく、保水性および排水性に優れ、さらに、鉢上げまでの肥料成分が入っているものが良いので、市販の用土をお勧めします（タキイのTM1、TM2等）。また、播種用容器として、セルトレー（200、288穴（外寸280×545mm））が効率的です。播種の手順は写真のとおりです。なお、種子は各セルに1粒ずつ落とすので、カレンダーのような厚紙と、割り箸の先を削ったものがあれば便利です。手順は〈写真〉の通りです。

播種してから発芽まで、セルトレーは室内に置き、新聞紙やビニールを掛けて保温し、表面が乾いてきたらスプレー灌水します。発芽までの日数は、市販種子の袋に記載されていますが、期間が過ぎても芽が出ない場合は、温度や水分条件が適当でない場合が多いようです。まれには、種子の保存条件が悪く、発芽能力がない場合もあります（発芽の予定期間が過ぎても種が全く変化していない場合はその可能性が高いです）。

元気に育って、セルトレーの下から根が出てきた時が、鉢上げ時期です。3寸鉢に鉢上げします。播種後、3週間以上トレーにおきたい場合は、液肥を与えてください。



<写真>具体的な播種の手順

◎7～8月播き品目

7～8月に播種する品目として、ハボタンや、鉢花用のプリムラ、ランタンキュラス等があります。また、パンジーやビオラをこの時期に播種すると、秋に花が楽しめます。これらは、育苗時期が高温期になるので、直射日光が当たらないよう、寒紗等の遮光用資材が必要です。ハボタンは、正月と切り離せない品目で、春になるとトウが上がり、花が咲きます。ハナナのように、なかなかきれいなものです。

富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン

ラベンダーセージ

職藝学院

教授 渡邊美保子

ラベンダーセージは、宿根サルビアの品種インディゴ・スパイヤーの通称名です。宿根サルビアには様々な種類がありますが、特に、ラベンダーセージは花壇の後方に植栽する草丈の高い宿根草として、一株植えるとドキッとするぐらい見栄えのする品種です。ラベンダー色の鮮やかな紫色の小花が花茎に群がるようにたくさんつき、草丈の高さも手伝ってダイナミックな彩りを楽しむことができます。



写真1 ラベンダーセージ6月初旬

咲き始めは6月の初め頃で、その頃の花の色は控えめな淡い紫色で、草丈も60cmほどですが（写真1）、季節が進むにつれて、どんどん花茎が伸び夏の盛りには1.5mを越えてしまいます。同時に紫色の花穂もぐんぐん伸びて、花につやがでてくるようになります。また、花が咲き進むにつれて花穂がぐねぐねと波打ち、踊っているように見えます（写真2）。



写真2 ラベンダーセージ10月

宿根草の中でもこれほどの七変化を演じてくれる花はないでしょう。

他の宿根サルビアと同様に、日当たりを好み、水はけの良い土壌でよく育ち、寒さに強く乾燥にもよく耐えます。葉をこするとさわやかな香りがあり、この香りはむしろ虫が嫌がるようで病害虫にも強い宿根草です。また、草丈が高くなる割には支柱の必要はありません。長くお花を楽しむために一つだけ定期的にするのは、切り戻しのお手入れです。くねくねと波打ってきたら、そろそろ花が咲ききった合図です。この頃になりましたら、花穂とそのずっと下の方にある葉を2枚摘み取るつもりで一節ほど切り戻します。すると、節から再び花茎が伸びてきて花を咲かせてくれます。草丈を抑えたい時は、全体の高さの半分ぐらいに切り戻しをしても大丈夫なほど、勢いのある植物です。

組み合わせは、隣にホソバイトススキ、宿根フロックスなどの宿根草、一年草では、その手前にセンニチコウの赤色の品種や黄色い花を咲かせるメランポジウムなどがおすすめです（写真3）。11月下旬になっても葉の勢いはまだまだありますので、暴れた枝だけを刈り取り、できるだけ葉を残して根に栄養分を蓄えさせて冬越しをさせますと、翌年も早い時期から花を咲かせてくれます。



写真3 ラベンダーセージ中央

—庭木に適したアメリカザイフリボク—

日本樹木医会富山県支部
樹木医 西村正史

春には花を、6月には実を、秋には紅葉を楽しむことができるというすぐれものの樹木があります。この樹木はバラ科ザイフリボク属の落葉高木で、名前をアメリカザイフリボクといいます。原産地は北アメリカです。今回はこの樹木を紹介します。

1. 特徴

この樹木の花には白い細長い5枚の花弁があり、この花が枝先に密集して咲きます(写真1)。その時期はソメイヨシノの花が散る頃で、白くて非常にきれいです(写真2)。花の期間は10日間程度ですが、花が終わると実が成長し始めます。実はバラの実に似ており、6月には1cm程度の大きさの濃赤紫色の実になります(写真3)。この実は、甘く食用となり、そのまま食べてもおいしいです。ジャムなどに加工してもおいしく食べられますし、果実酒の材料にもなります。アメリカでは6月に実が収穫できることから別名をジューンベリーといいます。秋になると、鮮やかに紅葉し、非常にきれいです。

このように年3回も楽しむことができ、樹高は5~10mでそんなに大きくなく、冬の寒さにも夏の暑さにも湿地にも強く、しかも病虫害の発生が少ないという特徴も備えています。そのため、最近では洋風の庭のシンボルツリーとして人気があるようです。

日本にも同じ仲間で、本州、四国、九州の山間部に自生しているザイフリボク(別名、シデザクラ)という樹木があり、庭木として植栽されています。実は秋に成熟しますが、渋いので食用にはしませ

んが、果実酒の材料にはなりません。

2. 維持管理

管理は自然の樹形で育てることを基本としますが、秋から冬にかけて枯れた枝や細い枝を剪定する程度のことを行います。ただし、花芽は前年に伸びた枝に着くことから、強い剪定をすると花や実の量が減りますので、注意しましょう。12月には元肥として緩効性有機質肥料を株元から少し離れた場所に施しましょう。4月には実肥として緩効性の化成肥料を、収穫後の7月にお礼肥として速効性の化成肥料を施しましょう。病虫害の発生は少ないのですが、カイガラムシ、アブラムシ、カミキリムシが発生する場合がありますので、注意しましょう。

なお、掲載した写真はすべて富山県中央植物園で撮影したものです。



写真2 満開(左右の樹木、2011.4.18撮影)



写真1 花(左図:枝先に密集して咲く状況、右図:一輪の花の拡大、2011.4.18撮影)



写真3 成熟した実(2012.6.7撮影)



グリーンキーパーの仲間と地域活動

花と緑の銀行魚津支店

本江地方銀行頭取 **宮川 哲男**

私達本江地方銀行8名のグリーンキーパー活動の一端をご紹介します。

私達は、本江地区振興会（構成21団体）の1団体として地域活動に参画しております。

例年5月の三世代交流クリーン大作戦では、グリーンキーパー全員で作った花鉢140本を参加者の方へ「お疲れ様」と、「花を慈しみ楽しんで頂けたら」という気持ちを込めてお渡ししています。

また、老人会の皆さんが管理している公園の1画は、花苗を植栽し、水をやりながら成長を楽しみ、憩いの場の1つとなっています。

地元本江小学校では、例年老人施設訪問や独居老人宅へ花鉢を贈呈しています。その事前準備として児童、教師、地区防犯組合、社会福祉協議会、児童民生委員会等の皆さんと共に、ベコニア・コリウスの花鉢を300鉢作ります。私達は、土づくり・鉢への植栽等を指導し、1ヶ月間水やり等の管理をしながら、7月下旬には、児童達がそれぞれの慰問先を訪れ花鉢を贈呈します。

花の育成や水やりを通じて、児童の「共同作業での友愛」、「花への慈しみ」、「老人への労り」、「善行での満足」等、豊かな優しい心を育む教育の一

環として、地域ぐるみで実施しています。私達も積極的に参加し、会話を通じて元気をもらい、充実を感じています。

今年度は、会員同士の情報交換や仲間意識を高めるため、市内の自然・庭づくり等を数ヶ所見学する計画を立てました。

現在1ヶ所を見終えましたが、好評であり、会員同士楽しみながら、日々の活動に生かしていけたらと感じています。

会の一員となって8年目、頭取となって3年目と経験の浅い私ですが、グリーンキーパーの皆さんと共に、花と緑を通じて、地域住民と係わり、住み良い街づくりのお役に立てればと思っております。



〈お知らせ〉

100文字応援花を募集します

皆さんが、花壇を見たときの感想や感動、花壇を世話している方々への思いや激励の気持ちを100文字以内にまとめた「100文字応援花」を募集しています。

【募集期間】平成24年10月10日(水)まで

【審査】専門家が審査し、優秀作品10点程度を表彰します。

【表彰式】12月に開催する花とみどり・クリスマスフェアで表彰します。



平成23年度100文字応援花
コンテスト表彰式

第40回花と緑の大会を開催します

【日時】平成24年10月9日(火) 13:30~15:40

【場所】富山県民会館大ホール、ギャラリーA

大会では、表彰（富山県環境部門功労表彰、当財団理事長表彰、花と緑のコンクール入賞者表彰）の後、花と緑の講演会（「ふるさとのために、何ができるだろう？」講師：サッポロビール株式会社）があります。



第39回花と緑の大会

表紙写真：「青野自然公園パークゴルフ場花壇」〈入善町〉

裏表紙写真：「夏の湖畔」；キンコウカ（ユリ科）富山市〈写真提供：長谷川幹夫氏〉



「夏の湖畔」；キンコウカ（ユリ科）富山市



花と緑の銀行だより 184号

発行日 平成24年7月

編集発行 公益財団法人 **花と緑の銀行**

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-2425

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/fgbank/>

富山県中央植物園

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-4187

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/>

県民公園頼成の森

〒939-1431 富山県砺波市頼成156

TEL 0763-37-1540

FAX 0763-37-1450

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/ranjyounomori/>

再生紙を使用しています。